

棚田に吹く風

2014
夏
Summer
季刊

2 特集

子どもたちの棚田自由研究

5 フォトエッセイ

光と風の中で

6 棚田・里山からのたより

棚田に生まれ、棚田に育ち、
棚田を守る、その人柄
兵庫県佐用町乙大木谷

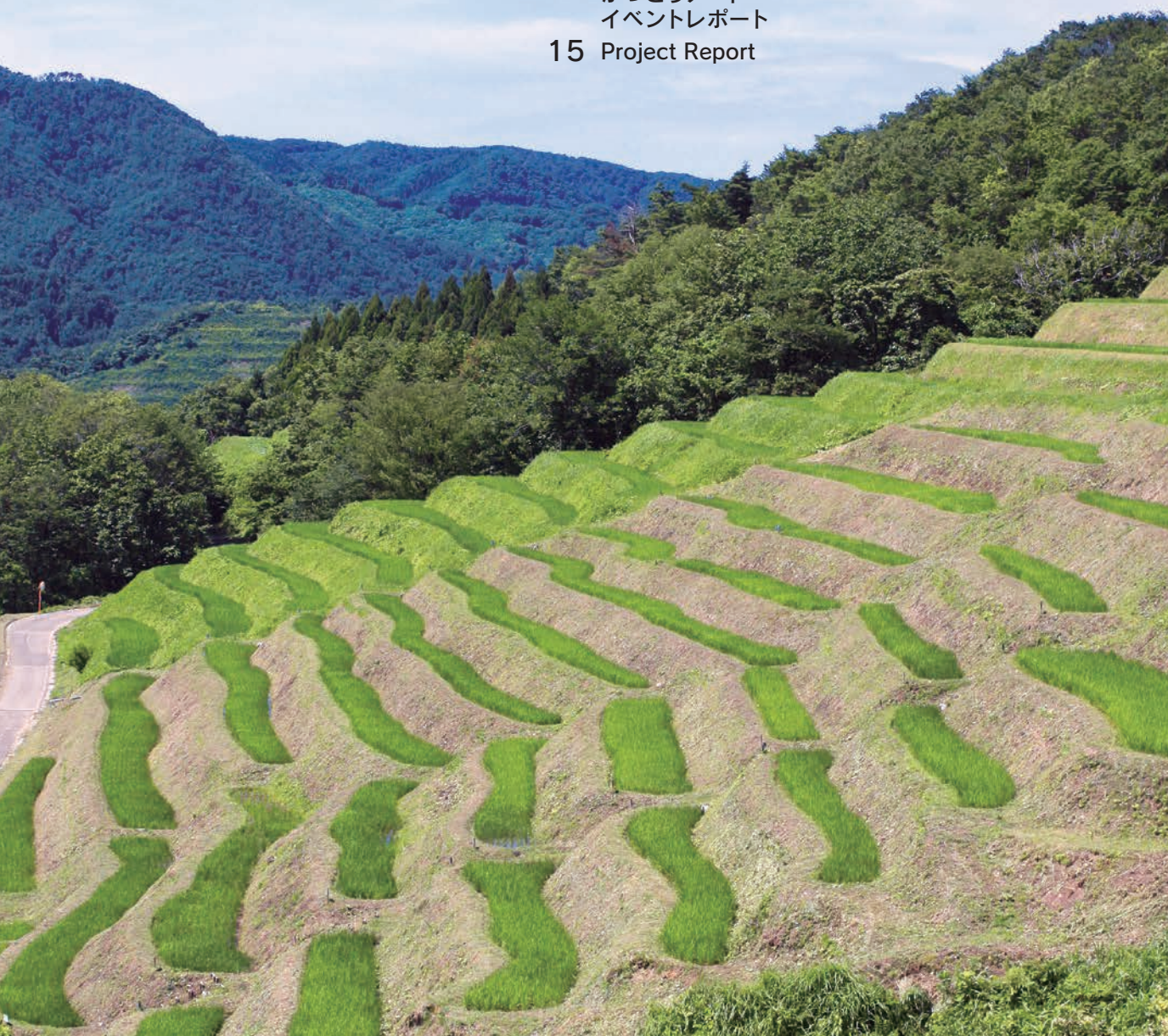
8 ヨネちゃんの ニッポン全国 棚田オーナー制度紹介 棚田未来予想図

9 棚田博士は今日も行く 限界集落から奇跡の集落へ 新潟県十日町市池谷

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの かつどうノート イベントレポート

15 Project Report



特集

子どもたちの 棚田自由研究

さあ、いよいよ夏休み到来！

子供たちにとっては楽しみもいっぱい
だけど宿題もいっぱい。

でもたくさん遊んで、ついでに宿題も
こなせちゃう絶好の場所があります。

そう、もちろん棚田！

棚田の生き物、棚田の水利、棚田の
お米づくり、棚田のおじいちゃん、
おばあちゃんのお話、いろんな組み
合わせで自由研究し放題。

今、棚田は子供たちが楽しみながら
環境を学べる場所として注目されつ
つあります。

今号は、子供たちの環境教育に取り
組む棚田地域を紹介します。



左上：キヨロ口の全景／左下・右：ただいま生き物探索中！

生き物を育む「森／水辺／棚田」のつながり

新潟県 十日町市立里山科学館
越後松之山「森の学校」キヨロ口

キヨロ口は十日町市立の「里山科学館」です。ちよつと聞き慣れない言葉かも知れませんが。

キヨロ口ができたのは2003年の大地の芸術祭の時でした。建物自体も建築家の手塚貴晴さん、手塚由比さんという方の「作品」ですが、コンセプトも「一般的な博物館とは異なっていました。最終目標は『地域づくりの拠点』になること。そのために、棚田や里山に関するいろいろな資料の展示や研究を、職員がするだけでなく、地域のひと「協働」して活動することをとっても大切にしています。

キヨロ口が建つ十日町市松之山地区は、昔から教育を重視する風風があります。小規模校が多く、理科教育といつても先生や道具はなかなか揃いません。でも、こは棚田地域のご真ん中。周囲はそこそ教材の宝庫です。「こども里山学会（総合的な学習の時間などの合同発表会）」はそんな中から生まれました。毎年12月頃に、十日町市内の小学校や中学校から100人近い子どもが集まり、一年間の学習で学んだことや調査でわかった発見などを発表しています。今年は第12回が行われる予定です。

キヨロ口ではほぼ毎週末、「生き物探検」が行われています。例えば、棚田の水源となる溜め池には、平地の田んぼではほとんど見られなくなってしまう生き物が今もたくさんいます。森／水辺／棚田は、生き物の生息にとって最適な環境なのです。



左：常葉菊川中学出張授業／右：静大棚田研究会生き物教室



命を育む棚田「千框」 せんがまち

静岡県菊川市 上倉沢の棚田

静岡県菊川市にある棚田「千框」では現在、環境教育として幼、保育園児と保護者向けに「夏の棚田生き物教室」を、小、中学校には出張授業と「棚田体験学習」を開催しています。

幼、保育園児と保護者に行う「夏の棚田生き物教室」では、私達と棚田保全活動を共にする静岡大学棚田研究会の学生達が子供たちと一緒に水路に入り、ヨシノボリやホトケドジョウを捕獲し説明を、一方保護者向けには静岡大学農学部生態学研究室の院生が棚田の植物について実際に植物を見ながらの解説を行っています。

小、中学生向けの出張授業は、棚田で行う「棚田校外学習」のための予備知識を子供達に伝えるためNPO事務局が小中学校で授業をし、実際に棚田に来て生き物と触れ合う「棚田体験学習」では水生生物のみならず棚田周辺に咲くキヨウ、ナデシコなど時期に合わせた在来種の花たちを紹介していきます。

棚田の環境は多くの生物の命を育み、棚田で学習する子供達と、共に活動する学生達、地元の私達も棚田に育まれている事に今更ながら驚いています。

かつて汗と涙で築かれてきた棚田は今、子供達の歓声に包まれ、美しい景観を私達に見せてくれています。

NPO法人せんがまち棚田倶楽部 事務局



生き物に触ってみるこ さわ

岐阜県恵那市 坂折棚田

坂折棚田では2007年にヤマアカガエルを目標種とした棚田ビオトープがつくられ、環境教育の視点からさまざまな企画が開催されています。2008年「小学生棚田ビオトープ観察会」を主催。2009年「日本陸水学会東海支部のサマースクールに参加した小学生、幼児の観察会が開催されました。2011年（より3カ年）「夏休み・こどもビオトープ観察会」を地元・中野方の公民館活動の一環として開催しました。

観察会を開催してみようことは、子どもは「とにかく採集が好き！」ということ。ビオトープの現代的意義や生物多様性、特定外来生物、持続可能性など「大人の視点」はもちろん重要ですが、純粹に触ってみるという「体験」が重要だと思います。

現代では坂折棚田という田舎ですら「農地に入るべからず」で、大人が子どもの生物採取の機会を奪っています。「自由」研究のための自由に生物を採取する場を大人は子どもに提供すべきです。幼稚園児など初めは「棚田にはこんな生物がいました」というテーマでもよいでしょう。次第にたくさんさんの「気づき」に発展し、水田と森林の距離が近い棚田は生物多様性にとって重要であるというような自由研究という「行動」につながれば良いと思います。

観察会講師 相田明



左：小学生棚田ビオトープ観察（2011）
／右：子供ビオトープ（2012）

棚田で自由研究！素材探し！

夏休みと言えば「自由研究」。棚田は研究素材としてテーマ溢れる対象です。棚田の近くにお住まいの方や興味関心が高いお子様には、ヒントになればと思います。

1 水温を測ってみよう！…棚田の水温調査で、田んぼの中、水路、ため池など、様々な環境の温度を比べて記録してみましょう。差から何かが見えてくるかもしれません。お友達や家族と協力して、同じ日の同じ時間に、平地の田んぼと比べるのも入れてみては。

2 生き物調べ！…棚田の周りの生き物は、地域や標高によって違います。調べるのは大変ですが、ネットの利用や、近くに自然系博物館がある方は、積極的に活用して専門家の方にも見てもらいましょう。希少な種類も見つかるかも。

3 棚田インタビュー！…棚田を管理されている方に突撃インタビュー。苦労されていること、歴史、育てているお米の品種、棚田に寄せる想いなど、質問項目を作って、現場の方の声を集めてみましょう！棚田の未来について深まるかも。

とっとり・なんぶ手自然ネットワーク サトノテ

桐原 真希



上：鳥取県南
部大木屋の
棚田／下：こ
の虫なあ～ん
だ？



トキを育む佐渡の棚田

新潟県佐渡市 月布施の棚田 他

トキ野生復帰のための環境整備は、棚田地域の山奥の放棄された田んぼの復元作業から始まった。繁茂していたヨシや木々を伐採し、重機や耕運機で整地を行い、ビオトープとして田んぼを復元。すぐにヤマアカガエル、クロサンショウウオ、アカハライモリ、ガムシなど多くの生き物がやってきた。周囲の木々から田んぼ上空に張り出した木の枝にはモリアオガエルの泡巣が見られるようになった。放棄棚田の復元・維持管理作業には、地域住民、地域の子供たち、NPO、大学生、ボランティアなどがトキの野生復帰に夢を描いて協働し、復元した田んぼに生き物を見つけることが励みになっていった。その後、減農薬・減化学肥料のトキ・ブランド米栽培が普及していき、営農が行われている棚田においても、トキを育む田んぼとして島内外の子供たち、消費者の方々に生物多様性のある棚田として注目され、生き物観察が行われるようになってきている。

新潟NPO協会 中島 明夫



小学校の生き
物学習の上
で（月布施の
柳平で）



棚田の自然観察会

千葉県鴨川市 大山千枚田

棚田で自然観察会を行う意味は何なのでしょう？ 棚田は稲作を行う場所ですが、沢山の生物の棲みかでもあります。生物に興味を持ってもらうのは勿論、生物と農家の暮らしの繋がりを伝え、様々な自然環境の形があり、人間も自然の一部であることを認識する。そんな役目が棚田の自然観察会にはあります。自然観察会には農家さんがスタッフとして参加してくれます。最近、気付いたことは、農家さんが田んぼの生き物について普通に話をしていることです。以前はカエルの卵があるくらいにしか思わなかった人たちが、「うちにも沢山サンショウウオの卵があった」という話を作業中に話すようになりました。鴨川の田んぼには全国的に希少となった生き物が沢山生息しています。それは鴨川だけでなく全国の棚田に言えることです。農家が自分の田んぼに生息している生き物について興味を持って、それらについて語ることはとても大切だと思います。棚田の自然観察会は、参加者だけでなく、そこに関わる農家や地元の人々が地域の自然を知り、後世に地域の事を伝え続ける場であると思います。

大山千枚田保存会事務局 浅田 大輔



土の何がある？／下：触って
上：根元の中？





一本の樹

千葉県鴨川市 大山千枚田

大山千枚田の景観を引き立てるポイントとして畦に立つ一本の「樹」がある。中でも柵田倶楽部から見おろす先にあるのが、榎の木である。上部エリアにあるこの木は朝夕の陽光を受け四季折々の彩りを添えてくれる、無くてはならない存在である。そして忘れてならないもう一本の「樹」がある。天皇陛下の歌碑の建つ展望台の直下にある柿の木である。畦のラインのど真ん中に位置して、春は芽吹きを水に映し、夏は稔りの稲穂に囲まれ、秋は彼岸花を従え、そして冬は残りの熟柿を小鳥にあたえ周囲と同化し深い眠りにつく。そんなたんぼの一年のサイクルを見ながら一本の「樹」は生きて来た。

そんな一本の「樹」の定点撮影を続けてから10年が過ぎようとしている。一本の「樹」のサイクルを私も見て来たことになる。梅雨が明けて一気に太陽の日差しが強くなると稲穂も輝きを増してくる。逆光に照らされ、稲穂に影を落とす夏の朝は一本の「樹」が存在感を増す時でもある。

フォト
エッセイ
光と風
の中で
写真・文
水田 稔



水田 稔 みずた みのる

1947年千葉県鴨川市生まれ。
報道写真家浜口タカシ氏(二科会写真部審査員)に師事。大山千枚田をはじめ、千葉県指定重要無形民俗文化財の北風原羯鼓舞、吉保八幡神社流鏝馬を継続取材中。
2010年から、スイスの大自然とヨーロッパの世界遺産を撮影中。2013年から、江戸幕府直轄地・「嶺岡牧」(鴨川市・南房総市)の撮影中。「四季の写真」(学研マーケティング)に大山千枚田の撮り方を特集。写真集「大山千枚田百選」(人類文化社)、写真展「ヴァリスの白き巔峰」(フレームマン・ギンザサロン)他、個展多数
●JPA・日本写真作家協会会員
●フォトグループ「MEW」代表
●「水田稔写真塾」主宰



棚田に生まれ、棚田に育ち、 棚田を守る、その人柄



上・下左：乙大木谷棚田全景／下中：地域おこし協力隊で働く明石出身の福井さん／下右：棚田オーナーの稲刈り

兵庫県佐用町乙大木谷

棚田で生まれ育った中戸さん

乙大木谷で生まれた中戸さん。戦時中は、お父さんが出征しており、姉妹が多かったため、長男である中戸さんは、小学校4～5年生の頃には勉強よりも炭焼きや薪出しなどしながら、家族を守らなければならなかったそうだ。

そんな当手を振り返って中戸さんは、『仕事は誰にも負けない。そして先祖から継承された棚田は守らなければならないと教えられた』。だから、小さい頃の遊びを聞いてみると、松の根を掘った肥松取り（風呂ダキ準備）や八反返し（稲の株間の草取り）など、生活のための作業の話ばかり。

専業農家で生計を営んだ中戸さんは、水利用の良いところで米づくりを行い、水利用の不便なところでタバコづくりを55年間続けてきたそうだ。

『当時タバコはコメの収入の倍に

棚田百選の一つ、美しい風景の兵庫県佐用町乙大木谷。乙大木谷棚田保全組合の組合長、中戸隆博氏（81歳）にスポットを当て、平櫛がインタビューした。インタビュー中は奥様も同席。いつものように中戸さんをサポートされた。

「こんにちは。中戸さん。今日はよろしくお願いします!!」

『ああ、あんたかいな。わしは耳が遠いから、電話では誰か名前を聞き取れなくて、誰が来るのか？と思っとった。オレオレ詐欺師が来るんじゃないかと不安やったわ』

乙大木谷の棚田とは

昭和20年代には160人、世帯数は30戸あったが、現在では人口38人、世帯数16戸。耕作地は5町程度に減ってしまった。ほぼ100%を天水に頼っている、ほ場整備の行われていない、平安時代から続くと言われている棚田である。

少子高齢化について

『小さい頃から家の手伝いはかりで勉強せず苦勞してきた。だから3人の子供たちには、私の昔の苦勞話ほしないで、学校で勉強してサラリーマンになった方が収入もよいと教えてきた。苦勞をさせたくないのが【親心】。後を継がせないようにした親が悪かった。集落のみんなもそうじゃないかな』

昭和50年ごろ、ほ場整備しないかと兵庫県から声がかかったが、急傾斜の棚田だからこそ、かえって耕作面積が減ってしまう。工事も高かったため、集落では行わないことを選択したそうだ。

『現在では、タバコを作っていた
耕地はほとんど耕作されなくなっ

棚田オーナー制度など、都市農村交流の取り組み

『外部からの応援が励みになって
いる』

平成12年から棚田オーナー制度を始めてもう14年になる。現在も10組が参加してくれていて、当初から継続して参加している人もいる。県外からの視察も多い。現在では、草刈りしてくれる地域おこし協力隊も、集落の将来を考えるための共同研究をしてくれる兵庫県立大学の学生もいる。また、耕作されなくなった土地に近隣企業がモモの木をボランティアで植えてくれ



乙大木谷棚田保全組合の中戸隆博さんと奥様

■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR姫路駅よりJR姫新線に乗換、佐用駅下車。その後、タクシーにて約15分。

【自動車】 中国自動車道佐用IC下車。その後右(南)、横坂の交差点を右(西)へ。県道240号線と交差すれば、右(北)へ。乙大木谷行きの看板が出ているので、その表示に従い県道524号線へ。再び「乙大木谷の棚田へ」の看板が出ている。佐用ICから約15分。

■ お問い合わせ

佐用町ふるさとづくり協議会(佐用町農林振興課)
Tel.0790-82-0667

る（さよう桃源郷プロジェクト）。集落のみんなも、協力してくれる。中戸さんが言うには、『苦労ばかりしてきたから、先祖の財産を守る根性だけはある。棚田百選に選ばれて何の得もないと思ってきたが、現在では人と出会う機会をたくさん作ってくれた。本当に有難い。大勢の人の笑顔が見られる。これ以上の幸せはなく、私の生き甲斐となった。これからも、体が続く限り、安心して暮らせる、喜ばれる村にしたい』。奥様も隣から言ってくれた。『老後は楽に暮らしたい』と思っているけれど、毎年忙しくなっている。でも、ボケ防止にもつながっているし、頭も体も元気なの

乙大木谷棚田才一ナ一 先着5組募集中!



は、人と会つてゐるからかな〜』(棚田の枚数に勝るとも劣らない1万人以上の方との出会いがあつたそうです) 現在81歳になる中戸さん。出会いを大切にしてゐる父の後ろ姿を見て、息子たちも週に1回帰つてきて、農作業など手伝つてくれるそつだ。

「棚田に向けて、何か一言ありますか」と聞くと、こう答えてくれた。

『一年、二年……永久に守つてもらいたい……と言いたいけど、それはよ〜う言わんな〜』

インタビュアー実施者（文責） 平櫛 武
キタイ設計株式会社（建設コンサルタント）に勤務。プライベートの時間でも、佐用町で畑作業を行い、播磨域を中心とする都市農村交流の橋渡しとして、「むらづくり」に奮闘中。



記念すべき第一回は、
「岩座神棚田」なの。
兵庫県の真ん中あたり、北播磨の山奥にあるんだけど、なんて読むかわかるかい？

正解は“イサリガミ”と
ても印象的な名前ヨネ！



この地域にある七不思議の一つに“塔の石”という高さ10メートルあまりの巨岩があつて、これが「岩座神」という名前の由来とも言われてるんだって。



オーナー制度はね、四月の対面式から始まって、田植え祭り、草刈り、肥料撒き、稲刈り、収穫祭…それに、初夏の「案山子作り」秋の「五霊神社秋祭り」冬の「蕎麦打ち」「餅つき大会」「しめ縄づくり教室」もあつて、一年中イベント目白押し。地元との交流がたくさんヨネ！

減農薬のお米づくりもプロの指導がありますから、初めてでも安心。日本棚田百選認定の美しい石積み棚田で、お米作りとイベントに参加しながら、みんなで景観を守りませんか～



※棚田オーナー募集地域紹介サイト⇒ [棚田百貨堂](#) 検索



ニッポン全国 棚田オーナー制度紹介

第一回

皆さん、ごきげんよう。棚田百貨堂※の聖女キャラクターヨネとします！このコーナーでは、楽しい棚田オーナー制度をたくさん紹介していきますので、これからよろしくお願いしますわ。

第4話 棚田病院



イラスト：横山功

20XX年……
棚田のヒーリング効果が科学的に証明され、英科学雑誌ネイチャーに発表された。
日本では、心身医療だけでなく、棚田での散策や軽い農作業がリハビリテーションにも有効だということで、すでにいくつかの総合病院が棚田地域へ移転を開始している。
また、ある都心の病院の庭では、棚田を新たに造成して、患者さんたちに農作業をしてもらう試みなども行われている。



みなさんの楽しい
アイデアを募集しています！！

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号「棚田に吹く風 未来予想図」宛
メールでも受付けています ⇒ hiroba@tanada.or.jp

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

限界集落から奇跡の集落へ

新潟県十日町市池谷



なかしま みつひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO 法人棚田ネットワーク代表。全国棚田 (千枚田) 連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地理科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

家。積雪が3メートルにも及ぶ冬季は雪掘り(雪下ろしのこと)を両親と奥さんに任せ、出稼ぎにでかけ家計を支えてきた人々だ。

まず集落長の橋場は77歳、今年3月に74歳の奥さんを亡くし独居世帯になった。出稼ぎは、最初東京浅草の炭屋、その後給料の良い出稼先を転々とし、最後は長野県茅野市の寒天工場だった。水田は150坪を所有、約20枚というから平均7〜8坪、現在耕作しているのは110坪。トラクター(23馬力)、乗用5条田植機、コンバイン2条刈を所有、すべて新品を購入、中古は安くても故障が多く、結局

117号の本町通りを左折、北上する。市街地を抜け、北原の交差点を右折、魚野市へ向かう国道252号を飛渡川に沿って東へ進む。標高170メートルの焼野の手前で右折、山道を標高300メートルまで上ったところに池谷の集落がある。棚田は、中山間地域直接支払の対象面積では17畝、集落内からその周辺にかけて点在している。

屋号で呼び合う旧住民5戸

集落の8戸は、同姓が多いためそれぞれ屋号でよばれており、旧住民5戸11名、新住民3戸8名である。旧住民のなかで、「橋場」曾根藤一郎さん、「津倉」曾根武さん、「隠居」庭野功さんの3人は中学卒業と同時に就農、夏は米づくりと一時期葉タバコを栽培した専業農



谷底と斜面の棚田を一望するには、十日町の市街地側から上る陣ヶトド山頂から眺めるのがよい。眼下に池谷の棚田、目を上げれば山頂部に雪が残る八海山を正面にした越後三山を見ることができる絶景だ。

新潟県十日町市は、豪雪と、東の西陣といわれるほどの織物のまちとして知られている。池谷は、十日町市の東北部、標高300メートルの魚沼丘陵上にある小集落。かつて37戸あった戸数が8戸に減り、限界集落から消滅集落になるのではないかとわれていた。それが皮肉にも、2004年の中越地震後さらに2戸減ったものの、外部からの支援で元氣を取り戻し、相次いで若者が移住、今や奇跡の集落といわれるようになった。

2013年6月、地元の地域おこし組織の総会に招かれ、久しぶりに訪ねた。現地までの公共交通機関はなく、タクシーを利用するしかない。池谷までのルートは飯山線・ほくほく線の十日町駅東口駅前から直進、突き当たる国道

新品が得をする」と仰しやる。

津倉は77歳、橋場より学年が1つ上で長老的存在、76歳の奥さんと2人の世帯。出稼ぎは、最初が東京千住の蕎麦屋、最後は茅野市の寒天工場、零下20度の厳しい寒さのなかでの作業であったが、安い外国産が輸入されるまで大工の手間賃なみの高い給与がもらえた。水田は140^坪、9枚を所有、そのうちの50^坪、3枚は事業の工区長を務めた西の野の圃場整備された棚田。現在100^坪をトラクター（24馬力）、乗用5条田植機、隠居、奥さんの実家3戸で共有するコンバイン3条刈で耕作している。

隠居は、73歳、72歳の奥さんと2人の世帯。出稼は、最初が沼津市の蒲鉾工場、最後は茅野市の寒天工場だった。水田は100^坪、10枚所有、そのうちの90^坪に水稻、転作田の10^坪ではサツマイモを栽培。トラクター（22馬力）、乗用5条田植機を所有、コンバインは共用機を利用している。

専業農家である橋場、津倉、隠居の3人はプロの農家としての意識が強く、コシヒカリの栽培でもそれぞれに拘りがある。たとえば、



1: 池谷の棚田 / 2: 「橋場」曾根藤一郎さん / 3: 「津倉」曾根武さん / 4: 「隠居」庭野功さん / 5: 多田朋孔さん / 6: やまのまなびや (旧池谷分校)



植付けの株数は坪当たり橋場36株、津倉45株、隠居は農協が薦める60株であり、施肥の時期も最初と最後のV字型か真ん中のへの字型かそれぞれ微妙に違うそう。何れにしても3人は池谷の顔であり、集落の中核をなす存在である。

「新屋敷」曾根一真さんは60歳、今年の3月市役所を退職。奥さん52歳、魚沼市の車の整備工場に勤める長男31歳、市内の企業に勤める長女25歳の4人家族で典型的な兼業農家である。水田70^坪、9枚を所有、そのうちの50^坪をトラクター（20馬力）、歩行型4条田植機、コンバイン2条刈を用いて耕作している。4条植えの歩行型田植機はかなり力が必要と仰しやる。

「坂之上」庭野昇一さん80歳、74

歳の奥さんと2人の世帯。蕎麦打ち名人といわれた坂之上が体調を崩してからは、夏だけ池谷で過ごし、その他の季節は長岡市の息子さんの家に同居するという暮らし。70^坪の水田は平場の集落中条の生産組合に全面委託しているそう。

これら5戸の他に、旧住民的存在が1989年に廃村となった隣の集落入山の住民だった山本浩史さん62歳である。山本さんは、現在市街地に近い平場に家を構え、入山の棚田に通い耕作をしていることから、池谷の住民と行動を共にしてきた。震災後、十日町市地域おこし実行委員会が立上げられた時、若手のホープであった山本さんが代表に選ばれた。家族は奥さん57歳、津南町に職場を持つ次女25歳の

3人。農業高校を卒業後就農したが、現金を稼ぐため市内の生コン会社に就職、現在に至っている兼業農家。所有する水田は140^坪、11枚、1枚が10^坪以上あるのは40年前に業者にたのみ3〜4枚を1枚にした畝町直しのおかげ。そのうちの100^坪をトラクター（24馬力）、乗用5条田植機、コンバイン2条刈で耕作している。

新住民3戸、子どもの声も

一方、新住民は、2004年10月の新潟県中越大地震前後からの入居者である。「三椿」井嶋三佳さん33歳は、震災発生2か月前の8月に田舎暮らしの情報をみて来住したが、すぐに避難生活を余儀なくされることになった。しかし、避難所で池谷の人たちと絆を深めたことにより留まることを決意。現在手芸教室をひらき、魚沼市の自動車整備工場で働く男性と結婚。今年子供が生まれ、池谷を赤ん坊の泣き声が聞かれる集落にかえた。

2010年2月には多田朋孔さん35歳一家が移住してきた。多田さんは京都大学文学部卒、コンサル会社に勤務した後、地域おこし協力

隊員となり大学応援部の仲間だった奥さん35歳と長男5歳を伴って来村。現在は協力隊の任期を終え、実行委員会の事務局長を務めている。奥さんも実行委員会の活動に参加して留まり、家族は次男1歳が新たに加わり4人になった。

2011年春にはJENのボランティア活動に参加した女性2人が廃校になった分校に入居、新住民になった。坂下可奈子さん26歳は香川県高松市出身、立教大学法学部を卒業と同時に池谷に来住、橋場と山本さんから借りた水田55坪にコシヒカリ、5坪にナスを栽培して生計を立てている。小佐田美佳さん27歳は東京都大田区出身、早稲田大学教育学部卒、広告代理



山清水米の発送作業

店に勤めた後、池谷に来住、今秋市内の男性との結婚が決まり、現在は市街地に居を移している。かくして池谷は高齢者率37%、平均年齢45・9歳の若々しい集落に生まれ変わったのである。

直販システムを確立した「山清水米」

実行委員会は2012年にNPO法人となって組織を強化、最も重要な取組みとして米の生産と販売を展開している。生産は、山本さんを含めた全員がコシヒカリを一発除草や鶏糞利用で減々米栽培を行い、新潟県の認証を今年中には獲得できるそう。実行委員会は、これを30キロ1万2千円で買入れ、「山清水米」と名付け1万8千円で販売、その差額6千円を運営費に充てている。

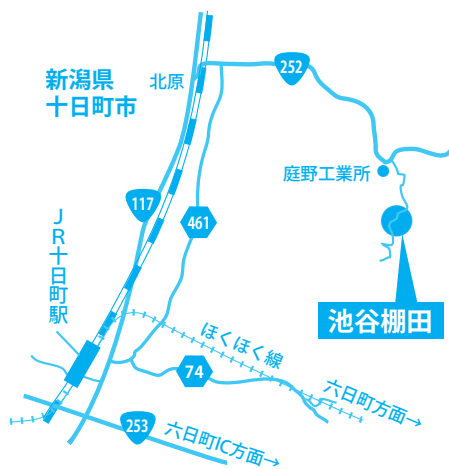
ユニークなのはその販売方法。友好団体が支援者に発送するニュースレターやWebを通じて3〜10キロまでの小口に分けて注文を取り、送料受取人払いで毎月100〜200口発送している。これを可能にしているのが「実るいけだん（池谷）」の表札を掲げる集会所

1階の施設。米の低温貯蔵庫と精米機、色彩選別機、計量機などが備えられている。これらの建物と施設は震災復興資金で建設されたが、その地元負担金650万円の捻出に苦慮していた時、事務機器の大手商社大塚商会の会長大塚実さんが500万円を寄付してくれた。会長は、鴨川市の大山千枚田保存会にも多額の寄付をしており、棚田保全の理解者として知られている。池谷では社員の一人がボランティア活動に参加していたことが縁になり、会長の厚意に結び

ついた。表札は会長の直筆であり、「実」の文字は会長に対する感謝の気持ちを示したものだ。

池谷を訪ねた時、毎月の米の発送日に当たり、旧住民の農業の浦口を自認する三人衆と新住民の坂下さん、次男を背負った多田夫人、小佐田さんが一緒になって精米から荷造りまでの作業に励み、多田家の5歳の長男も手伝っていた。それは、奇跡の集落といわれるのに相応しい光景であり、分校の復活も夢ではないと思った。

池谷棚田へのアクセス



【公共交通】JR十日町駅前より10km、タクシー利用にて約15分

【自動車】関越道六日町ICからは国道253号、117号利用がお勧め。117号・北原交差点を右折し国道252号へ。さらに庭野工業所前を右折すると池谷集落。所要時間は六日町ICから26km、約40分

会員の声

大阪の棚田でサミットを!



棚田むすびの会 代表
中崎 義己

「さて、この棚田は何県でしょう?」。日本の棚田百選のスライドショーを関西各地で開催しては6年。通算で百回以上、のべ千人以上の方々にご覧いただきました。スライドショーの最後で言う決め台詞はこうです。「答えは、なんと大阪府!」。

大阪府唯一の村、南河内郡千早赤阪村にある「下赤阪の棚田」。日本一高いビル「あべのハルカス」がある近鉄阿倍野橋駅から約25分、富田林駅から金剛バスで約20分。都心から1時間足らずの距離にこれほど美しい棚田があることを大阪在住の方々もほとんど知りません。

そんな下赤阪の棚田で、下赤阪棚田の会、棚田・ふるさとファンクラブ大阪府、千早赤阪村など大勢の皆さんのお力添えで、今年も「早乙女田植え」を行いました。早乙女田植えは緋の着物に赤い袴と赤い腰巻きという昔ながらの衣装で女性が田植えをする行事です。

“都会と棚田をむすび、フェミニン(女性視点)な棚田保全活動を目指す”棚田むすびの会では2009年よりこの早乙女田植えを、滋賀、和歌山など関西各地の棚田で毎年行ってきました。若い女性で棚田が華やぐこの行事



上：千早赤阪村の早乙女田植え／右：あべのハルカスで棚田のスライドショー



は、農家さんにもたいへん好評で、それが「また来年も田んぼ続けるかな」という動機に繋がれば私たちの活動は成功といえます。

実際、下赤阪の棚田では早乙女田植えをきっかけに保全活動のモチベーションがさらに上がり、それまで視野に入っていなかった棚田サミットの大阪府開催の話題も出るようになりました。毎秋「棚田夢灯り」というライトアップイベントで数千人規模の来場者を受け入れている同棚田は、運営体制も申し分ありません。

展望台から一直線にあべのハルカスが見える千早赤阪村下赤阪の棚田。歴代開催地の中で最も都会に近い棚田サミットはどんなものになるのでしょうか? そんな夢を農家さんと語りあうとき、棚田保全活動をやってきてよかったと心から思います。

会員レポート

会員のひろば

会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことをやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! (ご要望、感想やご質問でもOK!) (会員の声800字まで、会員レポート4000字まで。写真も添えて) 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-1-116 トーシンハイムセー七〇四号「棚田に吹く風」会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ⇓ hiroba@tanada.or.jp

Best Shot!



会員の声募集! 会員のみなさんの投稿の中から、編集部が選んだベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎月、紹介させていただきます! 送り先は下記。

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-1-116 トーシンハイムセー七〇四号「棚田に吹く風」会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ⇓ hiroba@tanada.or.jp



高橋公世の演劇「なやまち」の東京公演(8階)を受けて、午の季節、映の地、安井、神事、練、公の、約2時の

棚田散歩

山形県朝日町
榎平の棚田



山形県西村山郡朝日町の丘にある一本松公園では、6月上旬、色鮮やかなヒメサユリの群生が見られます。公園の眼下には日本の棚田百選に選ばれた榎平（くぬぎだいら）の棚田風景も一緒に楽しむことができます。

その日は一年に一度のヒメサユリ祭り。区中區外から多くの人々が集まって、美しい棚田を見下ろしながら地産のご馳走に舌鼓を打ち、可憐なヒメサユリを愛でるのです。私も二年越しでやっと参加の夢が叶いました。

当日は雨予報でしたが何とか最後まで降られずに済み、皆さん和気藹々、楽しく飲んで食べて、話に花を咲かせました。

当日は地元能中区のボランティア、棚田ママの会の皆さんが売店コーナーを設けていて、昔ながらの手作り菓子（玄米やきな粉等を使った素朴で美味しいお菓子）や、地元で採れた山菜漬けなどを販売していました。私もお土産でりんごジュースとお菓子を購入し、近くのりんご温泉（その名の通り湯船に林檎がプカプカと浮いているのです……）へと立ち寄り、心も体もほかほかになって帰路についたのです！

（東京都中野区 内田 千鶴）



リトル・フォレスト

夏編・秋編



©「リトル・フォレスト」製作委員会

2014年／日本／配給：松竹メディア事業部／
監督・脚本：森淳一／原作：五十嵐大介
劇場公開日：2014年8月30日

五十嵐大介のロングセラーコミックを実写映画化。都会で自分の居所を見つけることのできなかった主人公が故郷の山村「小森」に帰り、様々な恵みを与える一方で厳しさも見える大自然の中で、自給自足の生活をしながら生きる力を充電していく物語を、旬の食材を生かした日々の食事・料理とともに描く春夏秋冬の4部作。移ろいゆく東北の四季の美しさを映しとるため、約1年間に渡り、岩手県奥州市にてオールロケを敢行。また野村友里恵の「Leaving」がフード・ディレクションを担当。四季の恵みから生み出される、素朴さの中にも工夫をこらした料理の数々に、お腹がすくことうけあいです。

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



水柿大地(著)
¥780(税別)
岩波ジュニア新書
(岩波書店)
2014年5月

21歳男子、過疎の山村に住むことになりました

大学1年の時に彼女にフラれたことをきっかけに、「自分がやりたかったことは何か」を問い直した筆者は、休学して地域おこし協力隊に応募し、たまたまその時期に募集のあった岡山県美作市へ。魅力的な人と事象に出会い、草刈り機に慣れ親しみ、4年生で復学してからは高速バスで毎週東京・岡山間を往復、ついには本まで書いてしまった。この4年間を振り返り「おもろいことはいくつ」と断言する。読みやすいが、描かれている内容は「時代の継承」の実例として示唆に富む。「夜が明けたようだ」と語る地元の人の言葉が象徴的。

春の棚田講演会

2014年5月31日 報告 高桑 智雄

先ずは、中島峰広代表による『限界集落と云われた地域の今』。長野県のとある棚田集落で将来を案じた長老が一人都内の街頭で集落の困窮を一週間にわたり訴える。最終日に一人の若者が訴えに応え、この寒村に移住を決意するという農民文学の話。異色のテーマでした。

次の講演は、石田三示氏の『大山千枚田を語る』。多彩でエネルギーな活動の紹介は聴衆に夢を与え、よくぞアイデアがと感心。“過疎地に生きるも悪くはない、過密都市より心は豊かだ”。とても印象に残る言葉でした。



田植え体験と里山ボランティア

2014年5月10日 報告 上久保 郁夫

早朝の東京を出たバスは栃木県の棚田へ。今回は東京ボランティア・市民活動センターと協働で日立ボランティア・セミナーの皆様をご案内。車中は棚田や里山のお勉強、そして参加者の交流などで盛り上がりしました。新緑に包まれた棚田では農家の方から説明を受けさっそく田植え体験、そして昼食交流。午後からは放置され続ける棚田水源の雑木林手入れ。高齢化の棚田地域では田んぼ作業で精一杯、なかなか水源地の作業まで手が回らないのが現状のようで間伐後の雑木林を見て農家の方も大喜びでした。



棚田ネットワークの
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

初めて登場させていただきました、shioです。高校生の頃にTV番組で見た棚田の風景に魅了されてから棚田病にかかり始めた大学3年生です。去年の秋に参加したイベント活動に興味をもち、事務局へ通うようになりました。

「棚田が好き」という理由だけで入った世界。最初は何も分からず、スタッフの皆さんの様子を拝見しながら封筒作りや用紙折りの手伝いなどをしていましたが徐々に心境の変化が…。私も棚田保全の活動に参加したいと思うようになりました。今は棚田オーナー制度紹介サイトのリニューアルに向け、情報収集のお手伝いをしています。情報収集では全国の棚田保存会や役場に電話をするのですが、初めの頃は電話に慣れないこともあり四苦八苦。目上の方に対するメールや電話に苦戦しながら日々切磋琢磨しています。

ある地域に継続的に通っていると、だんだんとその地域の方々の暮らしが見えてきます。これは観光ではなかなか気付けないもので、継続的に通う特権だと思います。時期や天候、時間帯によって棚田の印象はガラッと変わりますし、何よりも地域の人が自然に接してくれる温かさが、本当に嬉しいですね。オーナー制度でも、参加者が「お客様」として迎え入れられるのではなく、地域のありのままの生活スタイルに溶け込んで交流できる形が理想だと思います。

私はもともと棚田の景観に興味をもって棚田ネットワークに入会しましたが、徐々に棚田地域に住む方々の「暮らし」を守りたいという思いも芽生えてきました。各地域には、それぞれ個性があります。まずはそこへ継続的に通ってその個人的な暮らしを知ること。そして、また行きたい↓地域の人に会いたい↓その思いを周囲に伝えたいと心境の変化が起こることがポイントなのではないか…。などと、最近いろいろ考えています。

皆様、shioは棚田歴がまだまだ浅く知識も経験も少ないですが、その分ちよつとしたことからも吸収する機会が多いです。引き続きよろしくお願いたします。

スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人
事務局
shio



新潟県佐渡市

佐渡ボランティアツアー

佐渡ボランティアツアーの事例を発表



棚田ネットの佐渡ボランティアツアーも今年で12年目を迎えます。「継続は力なり」とはよく云ったものです。

さて、この12年間の活動が評価され、7月9日に行われたトキのセミナーに招待されました。東京青山で開かれたこのセミナーのタイトルは『協働で支える、トキとの共生』、主催は新潟NPO協会です。佐渡を支えるSR（社会的責任）活動の一つとして、棚田ネットが発表した事例は「棚田保全で支える」。毎年佐渡の東海岸沿いの月布地区や岩首地区などの棚田保全やビオトープ手入れに励んだ事例です。年に一度のビオトープの手入れですからすぐに草ぼうぼうになってしまいます。しかし地元農家と強い結びつきも出来たし、トキの生息地保全と啓蒙に大いに役立っている事で、さらに継続して行くことを事務局スタッフが報告しました。（上久保 郁夫）

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

棚田ビオトープの田植え



今年の田植えは5月30日に行いました。天候は良かったのですが、今までになく暑い日。NPO法人恵那市坂折棚田保存会の田口会長からご挨拶と坂折棚田についての説明を頂き、作業開始。まずは、学生さんなど24名で田の中にある草取りをしました。この作業は思ったより時間がかかりましたが、何とか終了。今年は病気に強い赤米を植えることにしました。以前も赤米を植えたことがありますが、赤米は精米をする時、白米と混じってしまうため、きちんと精米機を掃除しないとイケないので手間がかかるとのことでした。参加者は大量に発生しているヤマアカガエルのオタマジャクシに驚き、それを避けながら、手でひとつひとつ苗を植えました。

8月2日には「夏休み・子どもビオトープ観察会」を予定しています。関心のある方はご連絡を。（相田 明）

静岡県松崎町

昔ながらの米づくりプロジェクト

畦付け・畦塗りと田植え



5月3・4日に畦付けと畦塗り作業を参加者16名で行いました。独特の伝統技術をみんなでマスターしてピカピカの畦ができました。そして5月17・18日の田植え作業は、参加者10名と少なかったのですが、2日間ともこの時期では珍しく富士山が見え続ける最高のお天気でした。同時に開催していた石部棚田オーナーの田植祭は、なんと過去最高の500名以上が参加して棚田はとても賑やかでした。

石部棚田はこれから夏の作業、7月5・6日と8月30日・31日に畦の草刈りと田の草取り作業を行います。厳しい暑さですが、田んぼに足を入れると気持ちがいい！そしてたっぷり汗をかいた後の温泉とビールは最高ですよ（笑）。

（高桑 智雄）

第20回 全国棚田(千枚田)サミット

テーマ

未来へつなごう
実りの大地

小倉の棚田(山形の棚田20選)

平成26年

10/23(木)~24(金)

蔵王と城と茂吉のふるさと

かみのやま

山形県上山市

上山市体育文化センター 他



かみのやま温泉
全国かかし祭り

問い合わせ

第20回全国棚田(千枚田)サミット上山市実行委員会事務局(山形県上山市農林課内)
〒999-3192 山形県上山市河崎一丁目1番10号
TEL. 023-672-1111(内線406) FAX. 023-672-1112

主催:全国棚田(千枚田)連絡協議会 会長(和歌山県有田町長)／主管:第20回全国棚田(千枚田)サミット上山市実行委員会 委員長(山形県上山市長)



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になる!

会報誌「棚田に吹く風」(年4回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員

維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 4,000円
応援会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員

1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

編集部から

東京で行われた新潟NPO協会主催のトキセミナリに参加してきました。そこで印象に残ったのが、「トキは日中韓親善の架け橋だ」という主催者の言葉でした。確かにいま話題の二つの島は日中韓対立の象徴だけど、佐渡島はトキという三国共通の保護鳥を通しての親善交流の可能性を期待させます。そもそも佐渡は、海があり山があり棚田がある、いわば日本列島の縮図です。その島でのトキとの共生の取り組みは、日本が日本らしかった平和な時(トキ)を思い出させてくれる一つのモデルになるかもしれない。もちろん棚田も三国共通の大切な文化。棚田を守るという観点からの三国間親善交流事業なんても、未来予想図に入れたいですね。

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイト
イベント情報、ブログ等
随時更新中!!



<http://www.tanada.or.jp>

棚田に吹く風

2014年 夏号 Vol.93

発行



NPO法人
棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565